



FIWA通信  
インベストライフ®

📅 2024年1月10日

今月のひとこと

## 【Vol.253】 今月のひとこと（理事より新年のご挨拶）

今月の  
ひとこと

新春に向けて理事よりご挨拶



岡本 和久（代表理事、理事長）

みなさま、新年おめでとうございます。

元旦早々、能登半島地震が発生してしまい、北陸地方の方は多くの被害を受けたことと思います。みなさんが大きな被害を受けなかったこと、そして、一日も早い復興を願っています。

私がか子供の頃、年齢の数え方に二通りありました。例えば「3歳です」と言うと、それは「『満』ですか、『数え』ですか？」などと聞かれたものです。満年齢というのは今の年齢の数え方と同じです。数え年齢というのは、生まれた時が1歳、お正月の度に全員が一歳ずつ年をとっていくというものです。昔からの年齢の数え方で、明治時代に「新暦」が導入されてからも一般に使われていました。戦後、1950年に「年齢計算に関する法律」が制定されてから満年齢に統一されたのです。

私は1946年12月14日に生まれたので生まれた時は、当然、生まれた時、数え年齢では1歳でした。そして翌年1947年1月1日、つまり生まれてから約半月で2歳になったわけです。この考え方はとても興味深いと思います。つまり、母親の中で命が誕生した時が0歳、そして約十月十日、約1年たってこの世に生まれてきた時が1歳、という考え方なのだと聞いたことがあります。

母の胎内で私が命を授かるのは、当然、父と母がいるからです。そして父と母も、それぞれの両親から命を与えられているのです。そしてその親たちも、何十代、何百代、何千代、何万代と遡ることができ、さらに人類の誕生、その前の生物の誕生、また地球の誕生にまで遡って生命をずっと受け継いでいる。そして、その生命体の流れが体験してきたことは何万年も、何億年も経つうちに日常的な意識の中ではどんどん薄くなっているのですが、その記憶は我々の生命の中にかすかに残っている。

稲森和夫さんが宇宙のどこかに「知恵の蔵」があるとおっしゃっていました。そのことについては昨年の私の動画 ([https://youtu.be/xpYSqrXt\\_o?si=ZkFtEgD60\\_QSSVY3](https://youtu.be/xpYSqrXt_o?si=ZkFtEgD60_QSSVY3)) でもご紹介をしました。「知恵の蔵」、それは我々の潜在意識の中にあるのでしょうか。そして我々は、知らず知らずのうちにその潜在意識に支配されて行動しているのだと思います。

ただ、人類は、普通、今の自分という狭い意識を中心に物事を考えてしまう。最近は特にその傾向が強まっているようです。この長い歴史と命の広がりをおろそかにあまり意識していない。個人のレベル、組織のレベル、国のレベルで意識の時間軸と空間軸が「自己中心的短視主義」に圧倒的に支配されていることが、各地で紛争や戦争やいろいろな犯罪が起こる原因なのかもしれません。

それに多くの方が気づいていくことが、平和への非常に大きな道ではないかと思います。私は常々、「新三方よし」ということで、「いのちよし、未来よし、地球よし」と言っています。人間も、動物も、すべての生きとし生けるものの命を大切にすること、そして今だけではなく、未来にわたってそれが永続すること、また、地球という我々を存在させてくれている場所、我々の進化を見続けている「存在」を大切にすること。それが「新三方よし」です。

世の中ではいろいろな紛争や戦争、そして災害や犯罪などが起こっています。それが多くの人々に深刻な被害を与えています。今年には多くの人に我々の「存在」というものの本質に気づいてもらえればと考えています。「数え年齢」という中に昔から伝わる意識、長い、長い「命のリレー」という考えがあるのかなと思います。非常に興味深く大切な要素が含まれているのではないかと思います、年頭に当たって紹介させていただきました。

最後になりますが本誌制作中にこれまで色々な形でFIWAの活動を支援してくださってきた大江英樹さんと山崎元さんが逝去されました。闘病中であることは知っていましたがそれにしてもこんなに早く、急に亡くなられるとは・・・、言葉がありません。お二人とも私よりずっとお若い。お二人の存在が個人投資家のためにいかに大きなものだったのか、改めて痛感します。戦友を失ったような気持です。これからはお二人の遺志を継いで私共個人として、そして、FIWAとして活動をしていく決意を固めたいと思います。それがお二人のこれまでの貢献に対するご恩返しだと思います。ご冥福を祈ります。

※セミナー案内はこの記事の最後をご覧ください。

**岩城 みずほ** （代表理事、副理事長）

みなさま、昨年は本当にありがとうございました。新年のご挨拶を申し上げます。

震災や事故、親しい方々のご逝去などが相次ぎ、悲しみの中で迎えた2024年でした。恐らくこれからも、私たちは悲しさや寂しさを抱えながら生きていくことになるのでしょうか。限られた時間の中でどう生きるのか、歳を重ねるごとに厳しく問われている気がします。昨年読んだ小説の中に、レゾンデートル（フランス語の哲学用語で「存在

意義)をテーマにしたものがありました。それが伏線となっていたのか、残酷な現実を前に、図らずも、帰省先で自らを省みる時間を過ごしました。

FIWA®には、「生活者が経済的束縛から解放され豊かで幸せな人生を実現できるための支援活動を行う」という理念があります。「生活者のためのライフプラン、金銭、投資、資産運用等に関するアドバイスが完全に利益相反のない形で行われ、当協会の理念に基づき行動するお金のアドバイザーを育成、認定、支援する」ことをミッションとして掲げています。FIWA®のレゾンデートルです。

FIWA®の活動は、いわゆる「自己実現」とは違うベクトルのものです。FIWA®の活動に参加しても直ちに収入が増えたりはしません。しかし、必ず実現したい社会を作るために、私たちは多くの時間、労力等を費やしています。FIWA®に関わってくださっている仲間、たくさんの皆さまも同じ気持ちでご協力、支援してくださっています。みなさまおひとりお一人が、かけがえのない人生の中のテーマの一つとして心を寄せてくださることで、前に進めます。

2024年は、資産運用立国に向かって本格稼働します。私たちはこれまで通り、FIWA®の活動に真摯に取り組んでまいります。みなさま、今年も引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

**石津 史子**（理事）

明けましておめでとうございます。新NISA元年、幕が開きました。

「本当に儲かるの？元本割れするのでしょうか？」「まとまったお金があるけれど、何買えばいいか教えて？」こんな会話、あちらこちらから聞こえてきますね。

だけどね、投資とは縁のなかった人が「バスに乗り遅れるな！」の勢いで乗車はしてみたけれど、その後の社会経済の変動等で心配になって手放したら、元本割れの損失を被ってしまった・・・という事例にはたくさん遭遇しています。「投資」は、勢いで乗るものではありません。

すなわち「投資」する前に、端折ってはいけないことがあるからです。それは家計管理・ライフプランを立てて行動するという事です。これらなしでは、目的もゴールも不明瞭。仮に投資できても、目的やゴールといった成果は手にできないかもしれません。

社会生活を営んでいれば、金融とのかかわりを持つことは避けられません。さまざまな金融商品と出会い、それらの中から選択して適材適所で利用することになります。各々どんな特徴があるのかをしっかりと吟味し、ライフプラン上の夢や希望を形にしていく行動力こそが生きていく力なのです。

すでに金融経済を理解し金融商品を自ら選択して投資助言のみを求めるレベルの方もおられますし、その前に投資を根付かせるための家計管理やライフプラン作りから始めた方がいい方もたくさんおられるように思います。

一人でも多くの生活者が経済的束縛から解放されて、豊かで幸せな人生を実現できるよう、今年もFIWA®の仲間とともに精進してまいります。

**中野 晴啓**（理事）

あけましておめでとうございます。いよいよ新年から新NISAが始まりました。米英の成功事例に倣って、日本でも長期資産形成を普遍的行動規範として定着させるため、非課税制度が本格的なスケールで拡大整備されて、長期投資を国民文化とすることが重要な国家戦略として明示化されたと言えます。

新NISAはこれまで資産運用に馴染みがなかった多数の一般生活者に「長期・積立・分散」投資へと誘導喚起する目的で設計されており、その行動手段としての主軸は、米欧と同じく投資信託の活用となります。そして当然のこととして、政策主旨に則って制度に参加する国民生活者に将来、相応な運用果実を等しく享受してもらうためには、けれんみなく合理的な長期運用を実践する投資信託が多数ラインナップされていることが前提条件で、そこへの役割を担う資産運用業界が国民益の最大化に向けて虚心坦懐に使命を果たす。即ち資産運用業の高度化は待たなしであり、それ故、岸田内閣は資産運用改革を当該業界に強く迫っているわけです。

とはいえ、これまで6千本超の国内公募投信を粗製乱造し、大量に販売することが専ら目的化されてきた投資信託業界が、新NISA開始と共に一斉に真つ当な長期投資ファンドの提供に邁進するはずもなく、短期目線のテーマ型ファンドやNISA登録とは埒外の毎月分配型ファンドが引き続き精力的に販売されています。またインデックスファンドが低コストで流通するようになって、新NISAのとりわけ積み立て投資枠では、超低コストの全世界株式や米S&P500などの海外インデックスに連動するタイプに参加資金が集中的に流入するようですが、制度目的にかんがみ投資行動への理解が欠落したままでは、投資信託の長期保有が一般化するまでの道のりは遠いままでしょう。

そこでこの期に大きくクローズアップされるのが、生活者投資家のためのアドバイザーの役割です。新NISAと確定拠出年金の両非課税投資制度の適切な普及に向けて、政府・金融行政は運用提供側からの誠実で的確な長期運用の供給意識の醸成を促すと同時に、各人の目的に沿った運用商品選択と、目的成就に必要とされる投資行動に導く「顧客本位」のアドバイス機能の社会的強化に向けて、昨秋の通常国会で関連法案を大きく改正したのです。

欧米では実質的にルール化が進む、顧客との利益相反を排したアドバイザーの存在意義が、これから劇的に高まることは必然で、そこに周回遅れの我が国の構造転換に向けて、FIWA®の主張は世論を動かすことになるはずで

私自身は「なかのアセットマネジメント」を新たに創業して、運用サイドから顧客本位の資産運用を徹底して体現して行く所存です。そしてFIWA®と共に、生活者主導の健全な金融立国化実現に向け邁進してまいります。今年もどうぞ宜しくお願いいたします。

高橋 忠寛（理事）

新年おめでとうございます。

今年は金融経済教育推進機構が設立され、顧客の立場に立ったアドバイザーの認定制度が始まる予定です。一般生活者の有料相談に対する意識も変化する可能性が高く、アドバイザーにとっては転換期を迎えることになりそうです。

私自身もアドバイザーの提供できる価値を多くの人に伝えていながら、FIWA（R）の認知度向上に取り組んでいきたいと思

本年もよろしく宜しくお願いいたします。

小屋 洋一（理事）

新年あけましておめでとうございます。

2024年は金融経済教育推進機構の発足と、顧客の立場に立った認定アドバイザーのリスト化・公表と岩城理事を中心とするFIWA®の働きかけもあり、ようやく日本でもアドバイザーの認知度が向上してくる年になるのではないかと期待しております。



FIWA®では理事をはじめ会員の皆様と一緒に相互に学びあい、顧客にとって心から信頼されるようなアドバイザー集団になっていくことで、今回の認定アドバイザーの試みを国内で成功させていく一翼を担っていきたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

（順不同）



## FIWA®からのお知らせ・セミナー予定

### 第220回 FIWA®マンスリー・セミナー

開催形式： On Line

担当： 赤堀 薫里

日時： 1月21日(日) 12:30～15:30

講演・講師：

岡本 和久「『キャピタル』を読み解く」

ブーケ・ド・フルーレット代表 馬淵 治好氏

「年初恒例 どうなる今年の経済・金融市場」

主催： NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

参加費： 3,300円

### 第70回 FIWA®サムライズ勉強会

開催地： 東京

担当： 岩城 みずほ

日時： 1月25日(木) 19:00～20:45

会場： 教室とZoomによるハイブリット開催

講演・講師：

金融庁企画市場局 市場課 市場企画室長 今泉 宣親氏

「資産運用立国に向けた取組み」

主催： NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会

オンライン受講申込先： <https://ssl.form-mailer.jp/fms/71888640807217>

会場受講申込先： <https://ssl.form-mailer.jp/fms/29256f40807218>

**第221回 FIWA®マンスリー・セミナー**

開催形式： On Line

担当： 赤堀 薫里

日時： 2月18日(日) 12:30～15:30

講演・講師：

岡本 和久 「名著読み解きシリーズ『テンプレートン・タッチ』を読み解く」

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス 創設者・理事 鬼丸 昌也氏

「すべての生命が安心して生活できる社会（世界平和）の実現を目指して」

主催： NPO法人みんなのお金のアドバイザー協会

備考： お申込みは開催日の三週間前より以下のサイトにて承ります

<https://happymoney.stores.jp/>

参加費： 3,300円

**FIWA presents 「FIWAみんなのお金チャンネル (YouTube)」 配信中**

岡本和久のDIY資産運用講座など過去、現在の動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/@fiwa8445>**FIWA presents 「マネーマネーマネーfor you」 開催中**

金融商品の販売にかかわらない独立系アドバイザーが集まっているNPO法人みんなのお金のアドバイザー協会（FIWA）で、新しくポッドキャスト配信を始めました。ポッドキャストとは、後からいつでも聞くことができるラジオのようなものです。今後はFIWA会員のゲストトークも予定しています。



パーソナリティは小屋と、キャサリンとナンシーの3人が務めています。お金に関するさまざまな気になることを楽しく語っています。40代の子育て中の3人が幅広くFIWAのことを知ってもらうために、頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。



マネーマネーマネーfor you



今月号の記事をすべてダウンロード

このページを印刷する

カテゴリー

今月のひとこと

タグ

【Vol.253】 2024年01月15日発行

2024年1月10日

FIWAマンスリー・セミナー講演 1

## 【Vol.253】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演1）

### 物価変動と金融政策の未来

東京海上アセットマネジメント

平山 賢一氏

レポーター：赤堀 薫里

#### 平山 賢一氏 プロフィール

東京海上アセットマネジメント株式会社執行役員運用本部長。

1989年横浜市立大学商学部卒業、94年青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修士課程修了、2018年埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程修了、博士（経済学）。1989年大和証券投資信託委託入社、97年東京海上火災保険入社を経て、現職。30年超にわたりチーフストラテジスト、チーフファンドマネジャーとして、内外株式や債券等の投資戦略を策定・運用する（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

『日銀ETF問題 最大株主化の実態とその出口戦略』より



やっとインフレ率は落ち着いてきましたが、今後どうなっていくのかというお話をします。

普通であれば30~50年くらいでインフレ率が上がっていくはずなのに、2000年になってなかなかインフレ率が上がらなかった。その背景は、世の中が変わったということです。情報社会化が急速に進んだのがこの21世紀に入ってからです。有名なトフラーさんが「第三の波」という本を書かれました。トフラーさんは昔から「農耕社会」が「産業社会」になり、「産業社会」が「情報社会」になると言っていました。これは大きなトレンドの変化です。「情報社会」と言ってもゆっくり動くものですから、「産業社会」を抜け出すのに時間がかかった。でもよくよく見てみると、数10年前に言われたトフラーさんの予想がその通りになっているわけです。特に先進国では情報化が進みました。新興国もその動きです。まさに中国・インドは、産業社会からの移行中です。

農耕社会のままではいようとする、技術を使わないですむようにしたいと思う勢力も当然あります。しかし、現在は本格的に先進国と新興国は脱産業化が進んでいます。脱産業化が物価にどのような影響を与えるのか。これが非常に大きなポイントになってきます。物価抑制圧力になるかと思えます。なぜか？産業社会はインフラを作ることによって工場を作らなくてははいけない。モノの生産性を整備するということは、非常にコストがかかる。資源がかかる。燃料がかかる。

一方で情報社会ではそれほどモノは必要ではなく、データが中心になるため、資源やエネルギーをそんなに使う必要がない。産業社会は、石炭やエネルギーである石油の価格が上昇するときにインフレ率の上昇が起こってくるため、それを分捕り合戦する戦争にリンクするわけです。そうすると情報社会においては、エネルギーを巡る



合戦というのは少し下火になり、むしろソフトデータをどう考えていくのかということになります。その分、エネルギーやマテリアル、資源といったモノの必要性は後退する。従って情報社会では大きなモノを求める必要はなくなってくる。

簡単に言うと我々20代の時は、天気のよい日曜日どこか行くにしても、車がないとデートにも誘えない。今はどうかというと、スマホがないと誘えない。今まではモノの塊である車を買わないといけなかったのが、今はデータ、スマホ一台あればいい。非常にコンパクトになっている。これは脱産業化の大きな象徴ではないのかと思います。その上で最近付け加えなくてはいけないことは、サステナビリティ重視の動きですね。物価に対してどんなインパクトを与えるのか。エネルギーとかそういうものを消費することを抑えよう。まさに社会要因の数十年単位の変化。アンチエネルギーです。例えばESG投資ではエネルギー産業とか、排出が多いので投資をしないというダイベストメントをやっています。これが進んでいくと、モノを消費しなくなるわけですから、インフレに対して、物価抑制要因になります。

エネルギーを使わなくなる。一方で企業の社会的責任が重視される。労働者の賃金を上げるとか、安い賃金で働かせてはいけないという規制も強まる。児童労働、そういったものをなくしていく。トレーサビリティを確保するためにコストをかける。非財務情報の開示のためにコストをかける。このようなサステナビリティ遵守の流れは、CO2削減という意味でいくと、物価の抑制要因になります。しかし、特に社会性というか、ESGのSを大事にしていくときは、物価の上昇要因にもなる。企業の外部性、つまり企業が今まで無視してきたコストを負担しなくてはならないため、この分が物価の上昇要因になるのではないのか。そういった意味ではサステナビリティ重視の流れは両方あります。

これらはどちらが強くなるかによって、インフレ率の影響度が変わります。両方の影響が今あると思います。脱産業化という点からいうと、ソフトウェアデータによる効率化は物価の抑制要因になります。この脱産業化みたいなものは、ある意味5年、10年、20年のタームではなくて100年単位です。文明が変わっていく。数百年単位の変化。超長期のものであるということ。これが近年起こっていることで、インフレ率がなかなか上がらないという状況が数十年続いていた。物価の安定時代が続いていた。

これは、脱産業化が本格化してきたので2000年代入ってから中国やインド、いわゆるBRICsの経済の成長によって原油価格が上がる局面はあったけれど、情報化や脱産業化の進展で、なかなか物価の上昇にはつながらなかったというのも、頷けるかもしれません。一方でサステナビリティは数十年単位の変化ではないでしょうか。そういう意味では社会的要因でいくと、二つ対峙した形の中でどちらかということ物価の抑制要因の方が働きやすい。これはかなり続くと思います。超長期の部分もそうですし、長期の部分の一部分。社会的要因。数百年単位で見ると1970年代のようなオイルショックのようなものは起こりにくいのではないのかという考え方の背景です。

講演では、物価変動について、人口要因と国際関係要因から解説。また、今後金融政策がどのように動いていくのか、また、新しい未来に向けて、ETFの出口戦略への提言をしていただきました。

（文責 FIWA®）

## Free Discussion

**岡本** | 通貨というものがどのように変わっていくのか。国家が発行している通貨は、たかだか100年経つかそれくらい歴史しかない。その前は布や米、金や貴金属であったりと、いろいろな変遷をしてここまで来ています。今はいろいろな代替通貨のようなものが出てきていますが、通貨というものは、これからどのような変化が起こるとお考えですか？

**平山** | 一番大きな課題だと思います。今までは、金や銀のような金属通貨みたいなものが一番多かった。ただ、昔であれば、貝や石、反物とかが通貨として認められていました。通貨は皆が認めるものであれば何でもよかった。金とか銀は、希少性があるのでコインとして使われてきましたが、経済成長が続くと決済するのに足らなくなってしまうため、コインではなくて、金を裏付けとした紙切れにしようとお金を増やしたのがこれまでの歴史だと思います。

何もそんなことをせずに信用だけでいいのではないのか。だから金属を裏付けにした通貨から、中央銀行、もしくは政府の信用を裏付けにした通貨に変わったというのが現状です。ただ、この国が借金ばかり増えてしまったので、信頼できなくなってしまうと、信用をもとにした信用本位通貨、クレジットが信頼できなくなると、通貨として誰も受け取らなくなってしまうという問題があると思います。そこで出てきたのがリブラみたいな、プラットフォームが通貨を発行して、『国がない方が逆にはいいのではないの?』となったわけです。通貨発行利益が得られなくなるので、国はそれを認めません。

現状でも信頼できない国がいっぱい出てきています。そういった所の通貨が暴落していくことは十分に有り得るでしょう。どれが支配を握るのかということ、最後は決済できるもの、と、一番原点に戻ると思います。決済とは、その通貨で貸し出しをしてくれるのかどうかということです。何でドルが強くなったのかということ、米銀を中心に世界中に貸し出しをしてきたからです。中央銀行だけでなく、その通貨をベースにした金融システム、金融機関が存在するかしないのかが一番。そうすると、圧倒的にアメリカが優位なことはまだ続くのか。

もし僕がフェイスブックのトップだったら、リブラによる貸し出しができる銀行をたくさん作って、新興国にどんどん貸し出しますね。世の中の預金の残高を増やしていくことによって作れると思います。それはなかなか今のプラットフォームたちはできていない。できるとすると中国。中国がシッパスを中心にした決済システムを作ろうとしていますから。これがどう米銀に勝っていくのかということだと思います。その前にやることは、香港ドルと人民元の統一化。これをやった後にそういうステージに立つのではないのかと思います。そういう意味でいくと、やっぱりアメリカのドルは、強い金融機関というシステムを持っているのかどうかということがポイントかと思っています。

**岡本** | ある意味、国の信用をバックに通貨が発行されていますが、通貨の発行量が増えてくると1通貨あたりの信用がどんどん希薄化してきます。希薄化している同士だから何となくバランスがとれているところがありますが、これから少しずつ変わってくるとなると、通貨そのものがキャッシュレスから何らかの形で、今はないような決済手段が出てくる可能性があるのではないかという気がします。

**平山** | そう思います。今までは通貨はすごく便利でした。みかんとりんごの価値の違いは30円と50円というように3:5という物差しを作ってくれた。でも今はIT革命によって、データをたくさん蓄積できるようになった。ミカン1個作るのとリンゴ1個作るのでは、実はCO2削減量は逆転しているとかないと、その価値はお金だけでは測れなくなってきます。そういう時代が、例のゴマ信用みたいに、人にお金を貸すときに、誰と友達なのかというところ。つまり経済的価値を違うところで見るようになってきてしまう。データが及ぼすデータ本位通貨間をどうするのか、これからのミソになってくると思います

**岡本** | ブロックチェーンかどうかわかりませんが、とにかく売り手と買い手の間の相互信用を結び付けるような、それが汎用して使われるような仕組みが出来てくるとまた全部変わってくるなと思います。すごく面白い時代ではないですかね。

**平山** | そう思います。「大きな節目を迎えている」、レイ・ダリオというヘッジファンドの総裁はいつもそう言っていますが、そういう時期だと思います。

**参加者** | 日銀のETF売却の件です。どういう状況になったら「ETFをどうしましょう」という話が本格的に議論されるのかというのが、全く想定できません。実際に悪い状況、暴落した時より、良い状況の方が当然良いわけですよ。どんなときに議論が本格化するのかシナリオをお聞かせください。

**平山** | 今から3年ほど前に『日銀ETF問題』という本を書きましたが、完全に既読スルーになっています。論者の中には何人か言われる人がいますが。私も本当かどうか分かりませんが、本を出した次の週の日本銀行内の書店では1位だったそうです（笑）関心は相当ある。本来やるべきなのにやれていない。なぜできないのか。

政権支持率と株価はリンクしやすい。そうすると政権の支持率を大きく左右する大きな内容になりやすいですよ。つまり政権的に安定性が高くないと、議論しにくい。当然、寝た子を起すことは日本銀行はしないので、議論というのは日本銀行がやるべきですが、恐らくやるとすると新しい資本主義か、もしくは財政諮問会議か、そういうところが発動するしかない。

日銀主導でこの問題を取り上げていくことは難しいのではないのか。かつ私が提案している内容はほぼ財政に近い話になってくるので、日銀だけで単独でできないのではないのかなと思います。その意味では政権支持率が安定していて、それを発動、発言するのは、多分NISA制度が安定化した後の政権側から出る話だと思います。だからなかなか進まないですよ。その前に第2弾を書いてしまおうと思います（笑）

**参加者** | 来年から新NISAが始まるということで、身近なお客様でこれから投資を始めたいという方がたくさんいらっしゃいます。そのときに「これから初めて積立NISAをやりますよ！」という方たちに向けて、もし平山さんが金融商品選びや選ぶ際の留意点とか具体的にアドバイスをされるのであれば、どんなアドバイスをされますか？

**平山** | 非常に関心が高いですよ。大学で教えていると、「オールカントリー8,000円と新興国株2,000円で投資をしようと思いますが先生、どうでしょうか？」と聞かれます。そうすると「オールカントリーの中に新興国が入っているからね」と返事しています。女子学生は非常に関心が高い。男子学生は「儲かる株を教えてください」としか言ってきません。NISAについては非常にニーズも高まっていますし、証券会社では店頭で「NISAください」という人がいるそうで、私もそれを聞いて笑ってしまいました。それくらい関心が高いので非常に重要だと思います。

金融リテラシーは高くないので、アドバイスをしていく人はしっかりやっついていかないと変なものになってしまう。1948年に日本では株式の民主化が行われ、多くの人たちが株式投資をしました。しかし、そこで大暴落がやってきて、「こんなものをやってはいかん」と、みんな貯蓄に流れていきました。そういうことにならないためにも目線を長期にしなくてははいけない。簡単に言うと、これから始める人は、『足もといくら暴落しても全然関係ないですよ』ということをお教える必要があると思います。

積立はどんどん元本が増えていきます。しかし、最後に大暴落を迎えるとだめなんですよ。例えば、3,000万円くらいになって、最後50%下がった場合、1,500万円になってしまいます。ところが最初に積立の時は10万20万なので、大暴落を迎えてもそんなでもない。人間は心理的にこれ以上損すると耐えられないというメンタルラインがあるので、このメンタルラインを、知らず知らずのうちに積立投資をすると超えている可能性があります。だから積立てる商品の内容は別に考えなくてもいいのですが、後の方になってくると、積立てる商品を安定的なものにしておかないと大変なことになる。なぜかという、メンタルラインを超えたときは、判断を間違えてしまう場合があります。

そう考えると、積立のスタート段階は、リスクは普通のパッシブファンドでやっついていてもいいのですが、将来的に自分のメンタルラインをこれ以上超えてはいけないというものを、自分が投資をする中で決めていきましょう。そして資産が膨らんできたときは、それを基にして、例えば株式のウェイト単位を相談していかないとはいけませんね、というのはいかがでしょうか。

**岡本** | 積立でやっていると、ある一時点をとってみれば、ものすごく下がっている可能性があるわけです。いつまでいくら必要だという運用の仕方にはあまり適したものではない。ただ逆に言えば、35年かけて積立たものを35年かけて取り崩していく運用になってくると、また少し違ってくる。大きいサイクルの中でどのようにそれをとっていくのかということではないのかと思います。今日もありがとうございました。

(文責 FIWA)

このページを印刷する

カテゴリ FIWAマンスリー・セミナー講演 1

タグ 【Vol.253】 2024年01月15日発行





📅 2024年1月10日

FIWAマンスリー・セミナー講演 2

## 【Vol.253】FIWAマンスリー・セミナー講演より（講演2）

「ウォール街のランダムウォーカー」を読み解く（4）

講演 FIWA理事長  
岡本 和久 CFA, FIWA®  
レポーター 赤堀 薫里

バートン・マルキールの『ウォール街のランダムウォーカー』を読み解いています。この本が出て50周年です。全部で4部の構成ですが、5回にわたって、1回につき1部ずつお話をしていきたいと思っています（最後の一回は「兜町の歩き方」）。

「ウォール街のランダムウォーカー」を読み解くシリーズ、第4回目ということで、財産の健康管理のための10カ条についてお話をしたいと思います。



一番目は、元本を蓄える。もちろんある程度の銀行預金です。これは当然必要です。ただ一般的に日本の生活者は現金を貯めすぎている傾向があると思います。1ヶ月分の給料に相当する金額が急に必要になる可能性は、実際はほとんどありません。それを考えると、1ヶ月分くらい現金をとってあればいいのかなという気がします。これは個人の選好の問題があるので何とも言えません。最悪、これは好ましいことではないですけど将来のための投資資金の一部を解約して現金化する選択肢もあります。それくらい重要なことであれば資金を何とかすることができると言えます。一般的に言えば、元本に相当する預金が多すぎて、本来もう少し積極的にやるべき投資にあまりお金が行かないという問題があります。

二番目は現金と保険で万が一に備える。これは非常に難しいところでしょう。保険は基本的にオプションです。例えば、1,000円の株が500円に下がっても800円のプットオプションを買っておけば、損失は小さくて済みます。また、1,000円の株を買おうと思っているうちに1,500円に上がってしまった。でも1,200円のコールオプションを買っていたならば、1,200円で買うことができます。つまり、自分にとって何か都合の悪い事が起こっても、オプションを買っておけばダメージは回避したり縮小したりすることができる。

保険とはそういうものです。例えば、事故に遭って長期に仕事ができなくなるとか、家が火事で燃えてしまう。働き手が急に亡くなってしまい生活が困窮する等いろいろありますが、そういう不慮の事故に対して、備えとして、保険を持っていることはある程度必要だと思えます。

しかし、いわゆる資産を形成するという目的で買うというのはほとんど意味が無い。資産形成とはあくまでも別の目的のものだと考えるべきです。資産形成の方は、私がいう「75文字の資産形成」を着実に自分でやったほうが、安いコストで安定したポートフォリオが作れると思います。保険は何でもかんでも入れればいいというわけではなくて、本当に必要なものをよく絞り込んで、掛け捨ての保険等をきちんと買った方がいいのです。



三番目が現預金でもインフレ・ヘッジ。これからのキーワードでは、まさに購買力ということになります。お金のモノを買う力が購買力です。インフレは、お金の持っている購買力を減少していきます。デフレは増やしていきます。その意味では、今まで購買力をあまり考える必要がなかった。でも長い歴史を見ると、デフレの時期よりインフレの時期の方がずっと長いのです。なぜなら人類は常に自分たちの生産能力以上のモノを欲しがります。だから生活に必要なモノの希少性が常にあるため、どうしても値段が上がりがちになる。そういうことがあるのではないのかなと考えています。生産能力以上のモノが欲しいということです。

四番目は節税対策と年金制度の活用。ここで大切なのは税金もコストだということです。コストである税金がいかに有効に使われているのかというのが大事なポイントです。ですから非課税制度も活用できるものはどんどん活用しないと損だということ。

五番目が運用目的をはっきりさせる。これも当然必要ですね。アドバイザーは、きちんと投資方針書を相談者と一緒に作って、それに基づいてずっと人生の伴走者としてアドバイスを続けていく。走る人はそれに基づいて行動を取る。それが正しいやり方だと思います。

六番目はマイホームの活用が入っています。アメリカでは、独身の時は小さいアパートを借りますが、結婚すると少し大きいアパートに移り、子供が生まれるとさらに少し大きいアパートに移る。でもだんだん子供が大きくなると、大き過ぎる家を小さくしていきます。売却をして小さい家買い換えることを繰り返すことによって資金を調達していく。そういう目的がアメリカの住宅だとありますが、日本の場合は、むしろずっと住むというケースの方が多いのではないのかなと思います。マルキールはその辺を考えていると思います。私は不動産を投資の対象にするというのは、あまり賛成ではないです。不動産を保有するよりもREITの方が投資対象としては魅力があると思います。FIWA®の積立インディクンのデータを見ますと、2005年～2023年まで日本株のリターンは8.4%。リスクは16.8%。日本REITの指数はリターンが6.64%、リスクは18.9%。だからリスクはREITの方が高く、リターンはREITの方が低い環境になってきています。ただ、日本株とREITの間の相関係数を見ますと、だいたい0.4とか0.5ぐらいです。そういう意味では分散の効果は確かにあるといえると思います。不動産投資が好きだという方はREITをポートフォリオに入れておく意味はあると思いますが、まあ、入れなくてもいいでしょう。

講演では財産の健康管理のための10カ条と、インフレと金融資産のリターンについて説明。また、投資家のライフサイクルと投資戦略。マルキールが提唱しているウォール街に打ち勝つための3つのアプローチを解説いただきました。

このページを印刷する

カテゴリー FIWAマンスリー・セミナー講演 2  
タグ 【Vol.253】 2024年01月15日発行



📅 2024年1月10日

FIWA認定会員 投稿コーナー

## 【Vol.253】FIWA認定新会員 投稿コーナー

### FPという仕事にかける夢

FPサテライト株式会社

取締役 坪谷 亮 CFP®, FIWA®

\* FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

#### 坪谷 亮 プロフィール

北海道出身。

金融商品を販売しない中立的なFPの無限の可能性に魅力を感じ、22歳までにCFP®, 1級ファイナンシャル・プランニング技能士を取得。

また、FPの活躍の幅を広げるためには「個人がお客様」という考えを変える必要があると感じ、法人との事業提携や財務コンサルティング等でFPが活躍できると信じ、中小企業診断士の勉強を経て21歳の時に一次試験合格を果たす。

FPの可能性を金融業界で留めないために、「一人でも多くの人の人生をより豊かに」というビジョンを掲げ、FPという職業の既成概念を変えるために思いを伝え続ける。



### FPという仕事にかける夢

#### FPサテライト株式会社との出会い

私は大学時代にFPという職業に出会い、人生で初めてこの職業に就きたいという夢を持つことができました。

FPに出会い、勉強をしていく上で、この幅広い知識を活かした仕事をしたいと思っていましたが、就職先は保険会社、証券会社、銀行、不動産会社等、幅広い知識の中で何かに特化し、FPのすべての知識を活かせる職業はなかなか見つかりませんでした。

その結果、見つけたのが独立系のFPで、自分の思いを実現させるためにはこの道しかないという考えになりました。ですが、独立系FPの道は険しく、新卒の道はほとんどありません。とりあえず、より多くの独立系FPの情報を集めようと思っていた時に見つけたのがFPサテライト株式会社になります。

そんな奇跡的な出会いがあり、今はFPだけでなく、経営者としても日々学び続けおります。

#### 若い人が望み、歩める業界に

上記の経験があり、自分のように「なりたいけども、前例がないから」と悩んでいる次の世代の人たちが、自分の道を歩めるようにしたいという思いが強くなりました。これは独立系FP以外を望む人たちも含めてです。

私が「独立系FPを望み、歩めるよう」にするために必要だと考えているのが雇用という手段です。私自身、人生で雇用者だったという経験はないため一概にそれが良いとは言えないのですが、私が学生時代に望んでいた雇用を次の世代には創りたいと思っています。正社員採用のある独立系FP会社があるだけで、望みを持てる人が多くいる、そう信じています。

この業界で、雇用の創出はそう簡単なことではないのです。それでも、そこに情熱やお金、時間を注げるくらい魅力的な業界だと私は思います。

#### 最後はFPに辿り着く

皆様は、何を基軸に、何かを学んだり何かを考えたりしますでしょうか。

例えば、長期的に物事を見ることの大切さは「何があるから学びます」でしょうか。「投資」でしょうか。「経営」でしょうか。「人生」でしょうか。

私の場合は、その学ぶ理由が「FP」であることを常日頃感じております。大袈裟かもしれませんが、日常のすべての出来事や人生経験がFPに繋がっており今の自分がいると思うくらいにFPという職業に感謝をしております。

FPという職業への恩返しのために、これからも情熱、お金、時間を注ぎ、独立系FP業界を望んだ人が思いを叶えられるために精進して参ります。

このページを印刷する

カテゴリ

FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ

【Vol.253】 2024年01月15日発行

2024年1月10日

FIWA認定会員 投稿コーナー

## 【Vol.253】FIWA認定新会員 投稿コーナー

### 2024年に「iDeCo野郎」として伝えたいこと

寄稿：FP事務所ライフホーカー 代表FP 神中 智博 FIWA®

\* FIWAは金融商品の販売を行わないアドバイザーに与えられる称号です

#### 神中 智博 プロフィール

1992年宮崎県生まれ。

関西学院大学アカウンティングスクールを修了後、NTTビジネスアソシエ西日本で、NTT西日本およびグループ会社の財務や内部統制、DX化等の業務に従事。マレーシアへの留学を経て、2022年10月兵庫県神戸市にFP事務所ライフホーカーを開業。金融商品や保険商品等を販売しない独立系ファイナンシャルプランナーとして、家計の見直しや資産形成に関するアドバイスのほか、オンラインメディアでの記事執筆、講演会やセミナーでの講師を務めている。

1級DCプランナー（企業年金総合プランナー）、AFP（2023年12月CFP®全6科目合格）、趣味は野球観戦と海外旅行。



#### iDeCo野郎の背景

私は、X（旧Twitter）を発信ツールとして積極的に活用しています。現役世代が今日からできる老後資産づくりをテーマとする、公的年金および確定拠出年金に関する解説は、5,200というフォロワー数（2023年1月時点）が示すように、日増しに高い関心が寄せられている印象です。

さて、政府の「資産所得倍増プラン」に基づく、NISA制度の大胆な改革が話題になった昨年2023年。非課税枠の拡大や、非課税期間の無期限化、生涯投資枠の新設など、その内容が衝撃的だったことは、これ以上言うまでもありません。また、大手ネット系証券会社による売買手数料の無料化など、「投資の民主化」も進んだ2023年は、歴史的な1年だったと言えるでしょう。

一方で、NISA制度の拡充によって、個人型確定拠出年金（iDeCo）の存在意義も問われた1年だったように思われます。たしかに、2024年、今まさに始まった新しいNISAを使えば、ライフプランを通じて資産を育てていくことができますが、iDeCoを含む確定拠出年金、私的年金が「老後に備える」ために有効な選択肢であることは、強調しておく必要があります。

そんな私の思いがXで爆発し、iDeCoの解説に注力し続けた結果、いつしか一部のフォロワーから「iDeCo野郎」と呼ばれるようになりました。もちろん、私はNISAを否定しているわけでもありません。NISAとiDeCo、それぞれの制度が持つ価値を、用意する資金の目的に合わせて活用してほしい思いは、フォロワーにもきつと伝わってきかずにはいけません。

**2024年は財政検証でiDeCoにも注目が集まる**

人口動態や経済情勢の変化に基づき、公的年金の給付と負担の将来見通しを5年に1度見直す「財政検証」は、公的年金のビッグイベントです。前回（2019年）の財政検証でも、現役男子の手取り収入に対する夫婦のモデル年金額（所得代替率）が、2019年度の61.7%から2047年度には50.0～51.9%に低下することを示す試算が話題になりました。

今回の財政検証の結果次第では、公的年金の上乗せ給付を目的とするiDeCoの拠出限度額を引き上げる議論が本格化するかもしれません。さらに、国民年金保険料の納付を現在の40年から5年延長する議論も、厚生労働省の審議会では本格的な議論が始まったところ。こちらも、iDeCoに加入できる年齢の引き上げとも密接に関わる内容として、ぜひ注目してもらえればと思います。

なお、2024年12月から、確定給付型の企業年金が導入されている会社員や公務員等の拠出限度額が20,000円（現在は12,000円）にアップすることはすでに確定しています。

このような事情を背景に、2024年は「iDeCo」という単語をこれまで以上に見聞きする1年になることでしょう。iDeCoの理解および普及の促進に向けて、私も身が引き締まる思いです。

**FIWA認定アドバイザーとしての決意**

最後に、iDeCoはあくまで選択肢の一つに過ぎず、賢明なリタイアメントプランニングには多様な選択肢が必要です。つまり、アドバイザーとしてiDeCoを正しく届けるためには、iDeCoの節税メリットばかりを強調するのではなく、リタイアメントプランニングにおける必要性を、公的年金やその他の私的年金等も踏まえて、しっかり相談者に理解してもらう必要があると言えるでしょう。

相談者が安心した未来を築くための行動を、FIWA認定アドバイザーとして、2024年はより一層力強くサポートしてまいります。

[このページを印刷する](#)

カテゴリー

FIWA認定会員 投稿コーナー

タグ

【Vol.253】2024年01月15日発行





📅 2024年1月10日

動画紹介

## 【Vol.253】FIWA動画紹介

FIWAみんなのお金チャンネルで紹介した動画です

FIWAではYouTube上で「みんなのお金チャンネル」という動画を公開しています。目的は以下の2つです。

1. 投資未体験者、初診者の方に資産運用で本当に重要なことを知っていただく
2. FIWAアドバイザーが投資未体験者、初心者の方に資産運用で本当に重要なことをどのように解説すれば良いかをしていただく

各回、10～30分程度を考えています。お役に立てればうれしいです。質問もご遠慮なくどうぞ。

### 年頭にあたって（岡本 和久）

特定非営利活動法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA®」の「みんなのお金チャンネル」、今回は岡本が「年頭にあたって」というお話をします。

- 00:00 資産運用、変化の予兆
- 02:46 潮流1 変化する投資の概念
- 04:15 潮流2 個別銘柄から投資信託へ
- 05:20 潮流3 グローバル投資
- 07:03 潮流4 対面販売からネット販売へ
- 08:57 バブル終焉までの投資信託
- 11:42 さわかみ投信登場とそのインパクト
- 12:35 地銀、ネット証券とのタイアップ
- 14:24 人生の伴奏者、アドバイザー
- 17:47 資産運用立国の二つの車輪
- (19:47)

年頭にあたって 四つの潮流とアドバイザーが求められる歴史的背景



## 本多静六先生に学ぶ人生計画の考え方

この動画は1月17日、公開予定です。

- 00:00 本多静六先生のプロフィールとライブプラン
- 04:49 人生ステージ四分法
- 09:42 人生計画の為に5要素と処世訓
- 14:25 私のライフプラン  
(22:32)

<https://youtu.be/VD-WZJDCiJo>

このページを印刷する

カテゴリ

動画紹介

タグ

【Vol.253】 2024年01月15日発行



## I-OWA マンスリー・セミナーより

### 「人生成功の方程式」

講演: 新 将命、レポーター: 川元 由喜子

成功とは何でしょうか。私はこのような定義を考えました。

「成功とは、自分にとって意義のある目標を事前に設定し、段階を追って達成するプロセスである。」

自分自身が意義を認めること、そして一つひとつプロセスを経ること、これらがキーワードで、出世とは異なるものです。私のこれまでの経験で分かったのは、成功する人間には共通点が多いということ。成功する原理原則というものがあるのです。それを簡単な方程式に表しますと、

$$\text{成功} = \{ \text{情熱} + \text{スキル(仕事力)} + \text{マインド(人間力)} \} \times \text{運}$$

一つひとつに序列をつけると、情熱が2番、仕事力が4番、人間力が3番、したがって運が1番となる。どんなに大きな数でも「×ゼロ」なら答えはゼロ。「運の無い人は諦めましょう」というのが今日の結論なんです。

仕事力のうち、機能的、専門的能力については、4つの型に分類できます。職人肌の一点深堀型、ジェネラリストの幅広浅掘型、「プロ」と言われる人は幅広一点深堀型、経営者になる人は深堀型の専門性に経営力・リーダーシップが加わって、幅広二点深堀型です。今日の自分は何型か、なりたい自分は何型か。このギャップを埋める作業が自己啓発です。成功する人は自己啓発をやっています。



仕事力の中には、そのほか普遍的な能力というのがあって、特に重要なのは人間関係能力でしょう。



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

周りが敵ばかりでは上手くいきません。成功する人というのは人柄が良いものです。そのほか財務リテラシーや語学力も必要です。

仕事力の次は情熱、次いで人間力です。人間は二割が生まれつき、残りの八割は変えることができる。尊敬される人間になるための「人間力」は作ることができるんです。そのために一番重要なのが「情熱」です。自ら情熱の火を燃やすことのできる自燃型の人間はせいぜい 10%、どうしても燃えない不燃型や、周りの火を消して回る消火型も居ますが、ほとんどの人は、マッチを擦ってもらって燃える可燃型です。そしてマッチの擦り方を知っている点火型の人間が 5%ぐらい。自燃型であると同時に点火型でもある人間が、通常は成功者なんです

では、自分の火を燃やし続けるためにはどうすればよいのでしょうか。その方法の一つ目は、人生に目的を持つことです。二番目の方法は、短期と長期の納得目標を追い続けること。一つ達成できたら新しい目標を作る。目標追求には終わりがありません。そして三番目は、点火型の人間と付き合うことです。これらを実行に移すことによって、活性度の高い人生を送ることができます。

そして成功するために一番大事な「運」。運の無い人は諦めましようと言いました。しかし運というのは、文字通り運んでくることができるのです。運が良くなる方法は4つ。自分は運がいいと思いつけること、運気を分けてくれる人と付き合うこと、そして3人のメンター(師)を持つこと。メンターとは人生の知恵や生きる勇気を授けてくれる人。そういう人を持つと、転んでもまた立ち上がることができます。最後は平凡ですが、やはり学び続けることです。常に自分の価値を高める努力はすべきでしょう。

軽妙なジョークとダジャレ満載の講演は、この他にも、情熱を燃やし続けるための目標設定のヒントや、人間力を高める「自責」という考え方、とりあえず Yes と反応する「肯定」の態度など、実践的な教訓と指針も満載でした。



### I-OWA マンスリー・セミナー懇談会より

#### 「人間力」を鍛える

対談:新 将命 VS 岡本 和久

レポーター:赤堀 薫里

岡本 | 先ほど、時間の関係でお話いただけなかった3つの「識」についてお話いただけますか？

新 | 識には、①知識、②見識、③胆識と3つあります。知識は情報やデータを持っていること。そこに自分のモノの考え方を加えると見識になり、見識は限りなく知恵に近いわけです。見識の土俵の上で物を決めて、それを実行に移すことができる能力が胆識。世の中の成功者は、例外なしに胆識者です。知識はあくまで物知りすぎず、見識は、モノを知っている上で、そこに自分の考えを加え、書いたり、話したりする人、職業では評論家、批評家と、大方、学者です。実業家やビジネスマンは結果責任を伴いますが、評論家は言うだけで非常に無責任です。伸びている人は、結果を出している。結果を出すにはモノを知っているだけではなく、実行しなくてはならない。リーダーや成功者は胆識者です。見識の世界に住む人は、行動を起こさず話すだけ、胆識者は有言実行です。



岡本 | なるほど、よくわかります。

新 | 百聞は一見に如かずと言いますが、「百見は一考に如かず」という言葉もあります。見るだけじゃなくて考えなければならない。そして、さらに「百考は一行にしかず。」という言葉が論語にあります。百回考えても行動しなければならない。最終的に成功する人は、行動力がある。大





## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

企業は体を動かさない評論家が多いですね。

岡本 | まあ、行動を起こさなければ、成功があるわけがない。考えているだけではしょうがない。投資というのも結局、知識・見識・胆識で、最後は胆識がないとなんの意味もなく、投資の収益につながらないわけですよ。それも自己責任ですよ。

新 | いうなれば自責ですよ。私が株で確実に儲かったのは私がかつて社長をしていたジョンソン&ジョンソンでした。私はこれで世田谷に家が建ちました。

岡本 | ジョンソン&ジョンソンがタイレノールの事件を起こした時いらしましたよね？どんな状況でしたか？

新 | 1982年、シカゴで7人ほど死人がでました。買収したマクニールという企業が出している、タイレノールという解熱鎮痛剤が原因じゃないかという疑いが浮上したのです。あの会社は「疑わしきは罰する」という企業理念があり、当時のお金で300億円くらい出して、全米の薬局や小売店から、当時シェア4割位あったタイレノールを回収しました。そして、会長が自らマスコミに出て、改善点を能動的に説明しました。その結果、落ち込んでいたビジネスが、悲劇が起こる前のレベルまでリカバーしていきました。企業理念のある会社は強いわけです。「消費者が第一である、全てのものは、消費者の次に来る」ということに徹底している会社ですよ。これは、ハーバード大学のケース・スタディーでも取り上げられています。

岡本 | これによって逆に企業に対する信頼度が増しましたよね。

新 | それに比べて日本の東電や銀行は薄汚いですよ。隠蔽の体質です。こちらから「明らかに間違えました。直します。ごめんなさい」という方が、案外マスコミは好感を持ってくれますよね。隠すからやられますよね。

岡本 | 有名なクレドのお話をしていただけませんか。

新 | 1886年、アメリカの東のニュージャージーという町で生まれた兄弟によって作られた健康医療の会社が起源です。今、年商8兆円位ですね。75年位前に、創始者の息子のジョンソンが作ったクレド、「我が信条」は、世界で一番有名で、世界から尊敬されている企業理念です。ここでは、4つの責任を高らかに謳っています。わが社の一番大切な責任はユーザー、「お客様」に対するものである。2番目の責任は社員の幸せに対する責任である。3番目の責任は社会への責任である。狭い意味の地域社会と、広い意味の世界社会と、両方の社会のことを指します。4番目の責任が株主への責任だと言います。この順番も重要なのです。そして、この企業は、過去60数年連続増収、40数年連続増益です。大きい企業でこのような会社が日本に



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

ありますか？まあ、大日本印刷がこれに近いと言えますかね。日本に来日した現在の CEO に対して、日経新聞の記者が「どうして長期でこれだけ増収増益なのですか？」という質問をしました。それに対して、彼は、わが社の長期的な増収増益の根源はこれだと「我が信条」を示しました。会社には組織図があり、それでおしまいという会社と、その組織図に魂（企業理念）を通わせているかの違いです。組織図に魂を通わせていると企業収益が 4 倍高くなる。これは、マクロ的に証明されています。日本の会社でもいい会社は魂を持っている。ダメな会社は銭儲けに走り、短期ではよくても長続きはしない。つまりサステナビリティが担保できない。

岡本 | 株主に対する責任が一番最後にくるのですね。

新 | アメリカの経営者は、非常に株価と株主を気にしています。フォーチュン 500 社でも、雇われ社長が 2 期連続で減収減益になると首になるのは日常茶飯事です。それなのにジョンソン & ジョンソンは、株主の責任を 4 番目に持ってきている。疑問に感じた私は、当時の会長に直接聞きました。「株主責任がどうして最後なのですか？一番大切ではないのですか？」と質問したのです。すると「わが社は株式会社ですから、株主さんが一番大切です。でも、株主さんへの責任は 1 年で終わってはいけません。一過性ではなくて継続的に株主責任を果たすためには、その前にやらなくてはならないことが 3 つある。一番始めはお客様への責任、2 番目に社員の幸せ作りに対する責任、3 番目に社会に対する責任。CEO をはじめ、世界中の 11 万人の社員がこの順番で仕事をすれば、結果として一番大切な株主に継続的に責任を果たすことができる。モノには順番があるのだよ」と言われたのです。私は、体中に電流が走るほど感動したことを覚えています。会社でも、人間も正しいことをやれば正しい結果がでます。成功者になりたければ、成功するための正しいことをする、それが原理原則ですね。

岡本 | 私も前職で、「日本一の資産運用会社になるのだ」と言った時、「それではお客に対して提供する付加価値で日本一になれ。そのためには、すべての社員がそれぞれの分野で業界トップになれ。君は日本法人の CEO として、どの運用会社の CEO よりも優れた CEO となれ」と言われたのを思い出します。ジョンソン & ジョンソンは明らかに良い企業であり続けるためのモデルになっていますね。

新 | この頃、僕がつくづく思うことは、きれいごとが大事ですね。妥協は後からするものであり、やることをやって、考えることをとことんやって、どうしても駄目なら妥協をする。人生初めから妥協しては駄目ですね。人生で大切なことは建前ときれいごとですね。

岡本 | 歳を重ねるごとに「青く」なっていく気がしますね。昔だったら青臭い議論だと自分でも思っていたことが、何かしっくりと来るようになってきている。だから、だんだん、「青年」になっている(笑)。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

新 | 少しずつ物事の本質が見えてくるんでしょうね。

参加者 F | 新さんが、この×(かける)運というものに気付いたのは人生のどのあたりですか？背景を教えてください。

新 | 伸びる人間に条件が3つあると思っています。まず座学です。座って本を読む、研修会・講演会・セミナーに行き人の話を聞く。座学の持つメリットは、物事を学ぶ時に体系的に学ぶにはいい機会です。人間を形成する重要性の中で、座学の占める割合は10%。2番目はメンター、師です。人間はそんなに強い動物ではないので、悩ましい時、悲しい時、ふと自殺を一瞬考えた時に、激励をくれる人がいると有難いですね。日経の「私の履歴書」を書いている人は、成功者です。彼らに共通していることは、若い時に必ずメンターを持っているということ。このメンターを持つということが20%を占めます。最後3番目は、修羅場です。乾坤一擲、背水の陣を強いられるような、結果責任を問われる難しい仕事を、比較的若い頃から複数経験する。その中で対外経験が含まれるとなおいい。修羅場が、人間形成における重要性の70%。昔の経営者の言っていた言葉に「経営学は本を読めば学べるが、経営力は、やってみなければ身に付かない」とあります。本に書いてあることを応用し、適用して実際にやってみなければ力が付かない。まずは座学で学んだことを、修羅場で経験し、途中迷ったら、メンターから勇気をもらう。これをやったら、人間はまず伸びる。しゃべって「なんぼ」でもないし、読んで「なんぼ」でもない、やって「なんぼ」ですよ。若い時は難しい仕事から背を向けてはいけません。ダボハゼのように食いついていかなければならない。

岡本 | 新さんのおっしゃる運は、あくまでもマネジメントできる、「運ぶもの」であり、通常運と定義が少し違う気がします。運というを与えられているものであって、我々がコントロールできないものだというイメージがあります。

新 | 自分で勝手に運という概念を定義すればいい。コントロールできないものは宿命であり、運はマネジメントできるものだ。運を自責的に捉えるか他責的に捉えるかの違いですよ。

岡本 | 運命が、マネジメントできるものということで気づくのは、運用ということです。これも結局、管理できるという意味で非常に共通点がありますよね。ただ単に運に任すのではなく、コントロールできることを最大限、管理していく。これが運用ですからね。

新 | 私の人生を変えた言葉に「ファン(FUN、楽しさ)」という言葉があります。私が42歳の時に習った言葉です。ジョンソン&ジョンソンの日本社長時代に、当時アメリカのCEOが世界中の社員に言っていた言葉です。「物事をやって、いい結果を出したい時は、それはすべからくファンでなくてはならない」。どうせやると決まっているのなら、しかめっ面をしてやるのではなく、自分の心のチャンネルを切り替え楽しんでやるといい結果がついてくる。「真剣にやるのはいいけ



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

れど、深刻になってはいけない」、ファンでやると、面白いようにビジネスの歯車が回りだして上昇傾向になります。会社の中でも、時々、さざ波のように笑い声が漂う会社は、みんなが基本的に活性化して、楽しんでやっている。全員がコンピュータとにらめっこして、笑いも起きない会社は墓場です。ファンを地でやっている会社が堀場製作所。会社のスローガンとして掲げているのは「面白おかしく」ですからね。どうせやるなら楽しくやっちゃえ、楽しまなきゃ損ですね。楽しんで儲かることはできないけど、楽しんで儲かることはできます。

参加者 H | 今は、深刻な顔の企業、政治家が多すぎる気がします。メディアも含めて成功モデルというか、楽しいという気持ちが欠けている気がします。何故なのでしょうかね、新さんはどう思いますか？

新 | 一つは、競争社会の中で、心の余裕やゆとりがなくなってシリアスになるのでしょうか。経営者は、腕を磨くという側面と心を磨く側面の両方が必要とされます。しかし、ほとんどの大会社の教育研究カリキュラムを見ても、技術の研修や財務諸表の見方等、スキルを教えても、人間力を教えている所はありません。仕事のスキルは磨いても心を磨いていませんね。職人集団であって、リーダーを作っていない。残念ながら教育そのものがない。アメリカの経営者と比較して日本経営者は勉強していない。魚は頭から腐るといいますが、会社も新入社員は絶対腐らない。社長や役員会が光っていないのです。残念ですけど、上が「あほ」だと下も「あほ」になるわけですね。

岡本 とても示唆に富むお話をありがとうございました。

# <モデルポートフォリオ:2023年12月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円
4資産型	積極型	-0.08	25.75	13.33	9.10	13.67	10.49	40.27	70.66	187.91
	成長型	-0.12	18.54	9.07	6.47	9.24	7.46	25.37	44.19	121.90
	安定型	-0.16	11.64	4.77	3.73	5.39	4.51	11.99	21.29	67.88
2資産型	積極型	-0.15	27.30	15.24	10.00	15.15	11.08	44.97	82.15	232.86
	成長型	-0.33	21.57	10.96	7.34	10.84	8.67	30.42	53.84	153.80
	安定型	-0.51	16.00	6.61	4.56	7.23	6.29	17.23	29.34	89.56

\* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。

積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2022年12月末に1万円投資資金を積み立て始め、

2023年11月末の投資資金までとする(2023年12月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所:イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)まで。

## ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

4資産型		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)	
		積極型	40%	40%	10%	10%
		成長型	25%	25%	25%	25%
		安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)		
		積極型	80%	20%		
		成長型	50%	50%		
		安定型	20%	80%		

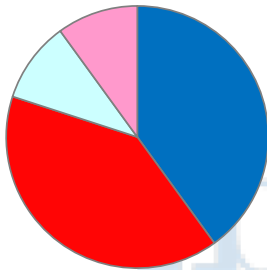
ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』のその他の記事はこちらからご覧ください。  
<http://www.investlife.jp/>

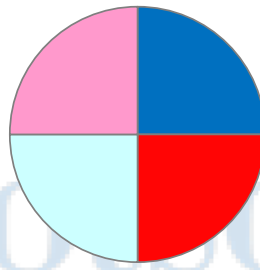
### 4資産型

- 国内株式: TOPIX
- 外国株式: MSCI KOKUSAI
- 国内債券: NOMURA-BPI (総合)
- 外国債券: FTSE WGBI (除く日本)

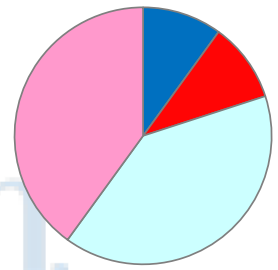
#### 積極型



#### 成長型



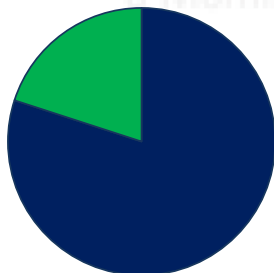
#### 安定型



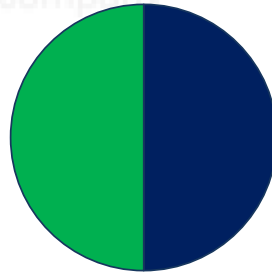
### 2資産型

- 世界株式: MSCI ACWI (含む日本)
- 世界債券: FTSE WGBI (含む日本)

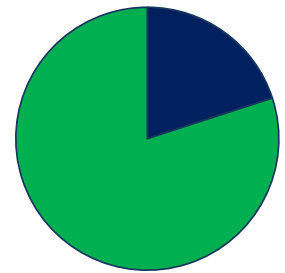
#### 積極型



#### 成長型



#### 安定型





<純資産上位ファンド(毎月および隔月決算型を除く):2023年12月末の運用状況>

★2024年1月1日付でイボットソン・アソシエイツ・ジャパンは新たに子会社モーニングスター・ジャパン株式会社(※)を設立しました。当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。

今回順位	前回(23年9月末)順位	運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の月末資産額				2023年12月末		モーニングスター 分類
				1か月	1年	5年(年率)	10年(年率)		10年(年率)	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~288万円	1年12万円	5年60万円	10年120万円	2000年1月~288万円	純資産(億円)	
1	1	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	1.5	34.6	21.3	—	—	15.9	67.6	—	—	13.9	100.6	—	—	29,988	24,281	外国株式・北米型
2	2	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	1.5	30.4	17.7	—	—	13.6	54.4	—	—	13.6	92.6	—	—	18,206	20,899	外国株式・世界型
3	3	SBI AM	SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	1.5	34.5	—	—	—	15.9	—	—	—	13.9	—	—	—	12,256	22,229	外国株式・北米型
4	4	楽天投信	楽天・全米株式インデックス・ファンド	2.3	34.4	20.7	—	—	16.2	64.0	—	—	13.9	98.4	—	—	12,132	24,906	外国株式・北米型
5	5	AM-One	グローバルESGハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	1.7	62.8	—	—	—	26.3	—	—	—	15.2	—	—	—	10,023	14,784	外国株式・世界型
6	6	アライアンス・B	アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	1.5	42.5	22.3	17.1	19.5	18.7	64.3	158.5	—	14.2	98.6	310.1	—	9,108	56,761	外国株式・北米型
7	7	ゴールドマン・S	netWIN GSテクノロジー株式ファンド Bコース(為替ヘッジなし)	2.2	66.8	23.2	17.6	23.6	28.0	65.9	170.6	563.2	15.4	99.5	324.7	1,909.9	8,767	28,379	外国株式・北米型
8	9	フィデリティ投信	フィデリティ・世界割安成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	4.6	27.9	—	—	—	14.3	—	—	—	13.7	—	—	—	6,188	28,440	外国株式・世界型
9	8	AM-One	グローバル・ハイクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	1.5	57.3	18.3	—	—	23.0	44.6	—	—	14.8	86.7	—	—	6,171	32,860	外国株式・世界型
10	10	ニッセイAM	<購入・換金手数料なし> ニッセイ外国株式インデックスファンド	1.8	32.5	19.4	12.2	18.7	14.7	60.9	112.2	—	13.8	96.6	254.6	—	5,932	33,294	外国株式・世界型(除く日本)
11	11	三菱UFJ国際	eMAXIS Slim 先進国株式インデックス	1.8	32.5	19.5	—	—	14.7	61.1	—	—	13.8	96.7	—	—	5,808	25,195	外国株式・世界型(除く日本)
12	12	レオス	ひふみプラス	-0.2	20.8	9.9	10.3	15.9	8.9	21.4	56.4	—	13.1	72.8	187.7	—	5,214	53,417	国内株式・キャッシュバランス型
13	14	キャピタル・I	キャピタル世界株式ファンド	1.3	30.2	18.1	10.8	18.8	12.6	48.5	97.0	—	13.5	89.1	236.4	—	5,208	25,510	外国株式・世界型
14	13	フィデリティ投信	フィデリティ・日本成長株・ファンド	-0.0	20.9	12.4	7.8	17.4	7.0	27.2	53.4	131.8	12.8	76.3	184.1	667.6	5,044	34,506	国内株式・大型成長型
15	16	日興AM	グローバル・ロボティクス株式ファンド(年2回決算型)	3.8	44.6	21.8	—	—	18.0	64.1	—	—	14.2	98.5	—	—	4,441	11,945	外国株式・世界型
16	21	AM-One	たわらノーロード 先進国株式	1.8	32.5	19.4	—	—	14.7	61.0	—	—	13.8	96.6	—	—	4,258	27,156	外国株式・世界型(除く日本)
17	18	三井住友DS	グローバルAIファンド	5.4	57.9	24.5	—	—	24.5	60.8	—	—	14.9	96.5	—	—	4,241	38,379	外国株式・世界型
18	15	AM-One	投資のソムリエ	1.7	0.5	-0.2	0.7	3.7	0.5	-6.8	-3.1	—	12.1	55.9	116.3	—	4,229	10,415	アロケーション・リスクコントロール型
19	17	セゾン投信	セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド	1.0	21.0	10.7	6.9	10.6	9.5	30.5	51.4	—	13.1	78.3	181.7	—	4,184	22,637	アロケーション・標準型
20	26	日興AM	グローバル・プロスペクティブ・ファンド	9.7	81.9	—	—	—	37.0	—	—	—	16.4	—	—	—	4,045	14,162	外国株式・世界型

対象は追加型株式投資信託のうち2023年12月末時点で1年以上の運用実績があるもの(毎月・隔月決算型、ETF・DC・SMAなど専用投資信託を除く)。積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとす。例えば1年の場合は2022年12月末に1万円で積み立てを開始し、2023年11月末投資分までの2023年12月末における運用成果とする(2023年12月の積み立て額は入れない)。  
 ※モーニングスター・ジャパン株式会社はグローバルなMorningstar inc.グループの各種のサービスを日本で提供します。

出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectのお問い合わせはイボットソン・アソシエイツ・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)にてご送信ください。  
 Copyright ©2024 Ibbotson Associates Japan, Inc.